

中井信彦氏を悼む

三井文庫前館長中井信彦氏は平成二年一月二七日に入院中の慈恵医大第三病院で心不全のために逝去された。享年七四歳。

氏は大正五年（一九一六）三月に台湾台北市で生まれ、昭和一三年に慶応義塾大学を卒業して、翌一四年には三井合名会社に所属する三井文庫職員となり、三井家史編纂員として調査、研究に従事された。戦後、三井文庫が活動を停止して後は、昭和二六年に杉野女子短期大学教授となり、三八年には慶応義塾大学文学部教授に就任して日本史の講義と演習を担当された。五六年に同大学名誉教授となり、翌昭和五七年からは愛知大学客員教授を勤められた。

その間、大学に勤務の傍ら三井文庫の再建に尽力し、昭和四〇年五月に現三井文庫が財団法人として再発足した時には主任研究員として若手の指導にあたり、昭和四三年五月から四五年五月までは三井文庫館長事務取扱を勤め、いったん退職されてのち、昭和五〇年五月から五六年五月までと昭和六〇年七月から六一年三月まで三井文庫館長を勤められた。館長退任後も三井文庫の顧問として三井文庫発展のために御助力をいただいた。

氏は三井文庫の資料を用いて専門である日本近世史の研究に努め、「町人請負新田の性格と機能」（『史学』二四巻四号）、「商人地主の諸問題」（『明治維新と地主制』）、「三井家の経営」（『社会経済史学』三一巻六号）などを発表された。また『近世後期における主要物価の動態（旧版）』（昭和二七年、三井文庫）を日本学術振興会から刊行され、『三井銀行八十年史』（昭和三年、三井銀行）の編纂と執筆にあたった。

三井文庫に在任中には当文庫の紀要である『三井文庫論叢』に、「大坂御金蔵銀為替の中絶始末（上）」（第一号）、「三

井事業史研究の課題」(第二号)、「共同体的結合の契機としての『血縁』と『支配』」(第四号)、「寛政物価調査における西陣物値段」(第五号)、「三井高業学芸資料」(一)(二)(三)「(第一号、第二号、第三号)を発表された。『三井事業史』本篇一巻、二巻、三巻上の刊行に際しては監修の任にあたった。また『三井不動産四〇年史』(昭和六〇年、三井不動産株式会社)や『三井八郎右衛門高棟伝』(昭和六三年、三井文庫)の執筆にもあたられた。

さらに氏は『幕藩社会と商品流通』(昭和三六年、塙書房)、『大原幽学』(昭和三八年、吉川弘文館)、『正宝事録』(昭和四一年、日本学術振興会)、『転換期幕藩制の研究』(昭和四六年、塙書房)、『歴史学的方法の基準』(昭和四八年、塙書房)、『町人』(昭和五〇年、小学館)、『色川三中の研究』(昭和六三年、塙書房)などを刊行されて、日本近世史の広範囲にわたる研究に指導的な役割を果たされてきた。

このように氏は、多くの貴重な研究業績をあげられるとともに、三井文庫、とくに昭和四〇年再発足以後の文庫の発展のために大いに努力された。今日までの文庫における史料の蒐集と整理、研究成果の公表、さらに別館設立の際における美術品の受け入れ等については、氏の熱意と力によるところが大きかったのである。

ここに氏の永年にわたる御尽力に対し衷心より感謝の意を表するとともに、謹んで御冥福をお祈りする。

(館長 山口和雄)